

～『勤続20年』から学んだこと～

グループホームえんで介護職に就くまで

高校を出てから30代前半までは、楽譜問屋、弁当配達、巡回入浴、ビルのガラス清掃など、人生を彷徨いながらも、縁のあった仕事を転々としていました。「ホームヘルパー2級」を取得した2003年に新座市にグループホームを開設すると聞き、介護の仕事に希望を抱いていた私は迷わず面接を受け、幸いにも採用して頂きました。

グループホームでの介護職の魅力

介護の仕事は「きつい、給料が安い」などの、マイナスなイメージもついて回りますが、待遇も以前より格段に改善されつつあり、何より人と人との真っ正面から心を交わせる仕事なので、非常に学びや喜びが有る仕事だと思います。戦争を体験されたり、山あり谷あり多様な人生を歩んで来られた入居者さんのお話から学ぶことも多いです。日々一筋縄では行かない問題も発生しますが、そのつど回りのスタッフや利用者さんに助けられ、何とか続けて来れました。「介護者＝支える側」かも知れませんが、人生の先輩方の生き様や笑顔に「自分が支えて貰ってるんだな」と痛感する事も多々あります。「効率や生産性」を上げるのが目的でなく、いかに入居者さんが、安心して楽しく生活して頂けるのかを常にチームで話し合い、助け合い、サポートする仕事だと思います。

認知症の高齢者の方々が、最期まで、その人らしく過ごせる環境を

私の所属は認知症グループホームで、認知症のある方々が1ユニットで9人生活されております。洗濯、掃除、入浴、料理、外出支援などの生活に必須なサポートは勿論、御本人のペースや尊厳を大切に、最期までその人らしく生活できる環境作りを日々目指しております。また同じ建物内にデイサービスもあるので、一緒に体操やレクリエーションを行ったりしています。

介護職を考えてる方々へ

少子高齢化、不安定な世界情勢など、様々な課題を抱えてる今日の日本ですが、是非日々人間ドラマが展開される奥深い介護職に、飛び込んで来てもらいたいと思います。誰しも初めは未経験、技術や認知症対応は1つひとつ覚えていけますし、人と人との向き合う仕事なので「やりがい」や「充実感」は、とても実感できる仕事だと思います。

(グループホームえん／滝谷賢介)